

『神様と人々の愛に感謝』

マリア・クララ 朝見 鈴子

思い起こせば三十二年前、城北橋教会の門を叩いたのは、子供の交通事故が切っ掛けでした。愛する次男が事故で入院した時から何が真実の神なのかと考えるようになりしました。

子供のことが心配で食事も取れなくなるくらい悩みました。息子が「本を読んだよ、イエス様が助けてくださるよ」と言ったのでした。小学校五年生でした。私の生活には縁もゆかりもなかった城北橋教会に深く吸い寄せられるように行きました。代母さんになって下さいました川口様とミサに与るようになりしました。

夫婦でひたすら神様にお祈りし、マリア様にお取り次ぎを願いました。神父様やシスター様、信者さんが、いつも優しい言葉をかけて下さいました。皆様の愛に心を打たれ胸が熱くなりました。

三十一年前、私が洗礼を、そして二カ月後愛する主人と長男が洗礼のお恵みをいただきました。

二十一年前主人は癌になり六ヶ月の入院後、神様に感謝しながら天国に召されました。本当に苦しかった。「人の誉め言葉も、貶す言葉もたいしたことはない。しっかりとイエス様について行きなさい」と主人は私と二人の息子に生きていけるように言葉を残してくれました。その時も城北橋教会の皆様、そして名古屋教区の皆様に、本当にお世話になりました。心から感謝を致しました。

人に誤解され、言葉で傷つき、心も肉体も傷ついた時、主人の言葉と神様は私のことをご存知だからと思ひ、強く生きていこうと思ひました。そして親切な信者さんが、未亡人の私をいやして下さいました。私が出会った兄弟姉妹は神様からの贈り物です。

三十八歳、洗礼のお恵みを頂いた時から相馬司教様に教区のいろいろなボランティア活動に参加するようにといわれ、従って参りま

した。活動の現場で悩んでいる人々によく出会いました。友人になりました。苦しんでいること、悩んでいること、病気のことなど聞かせて下さいました。「お一人で悩まず、ぜひこの機会に教会にお出掛けになりませんか、宗教は決して強制すべきことではないと思ひますが、神様という存在を信じてことで人生観が変わると思ひますよ」と言つて、よくお見舞いにかがたりしました。悩み苦しむ人々が受洗のお恵みを与えられ、いろいろの教会で愛する人々の代母をよくさせていただきました。宝としての友ができましたことを神様に感謝いたしました。「生きている自分」から神様のお恵みによつて「生かされている自分」を心から実感出来ますように、これからも悩める人々のために神様の愛を心にしみいるように、語りかけたいと願ひながら、お祈りいたします。

このように明るく生きていけますように。人生は山あり谷あり、どんな時にも感謝して。

祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ神がキリスト・イエスによつて、あなた方に望まれることなのです」(一テサロ二ケ五・一六〜一八)。

個々の人生には個々の道がある。いつも広い心で受け止め人々と愛し合つていきたいと願っています。神様と人々に助けられながら、「いつも喜んでいなさい。絶えず

